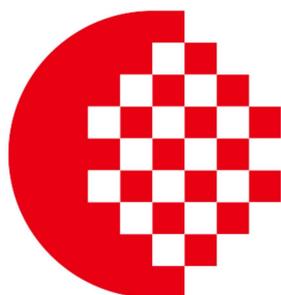


**令和2年度
ミュージアム・エデュケーション研修
(前半日程)**

テキスト・資料集



文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan

主催：文化庁

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館
葛飾区郷土と天文の博物館

日程：前半／令和2年10月7日（水）～9日（金）

後半／令和3年2月8日（月）～9日（火）

会場：前半／東京都美術館 アートスタディールーム ほか
後半／葛飾区郷土と天文の博物館 講堂 ほか

令和2年10月 文化庁

目 次

- p 1～ ①オリエンテーション・講義「博物館で起こる学びとは」
- p 3～ ②講義「人はどのように学ぶのかー発達心理学の視点からー」
- p 4～ ③グループディスカッション【博物館教育の振り返り】
- p 5～ ④講義「社会課題に呼応する博物館活動
—社会的包摂の視点とウェルビーイング」
- p 6～ ⑤講義・ディスカッション「利用者の博物館体験について知る」
- p 8～ ⑥講義「社会教育・生涯学習・博物館・博物館教育」
- p 9～ ⑦講義・事例紹介・ディスカッション【学校のよりよい利用にむけて】
講義Ⅰ「学校と博物館 そのよりよい利用にむけて」

講義Ⅱ「学校教育現場の視点から」

事例紹介「博物館の現場から」
- p 14～ ⑧利用者が能動的に学ぶプログラム体験
Ⅰ「大人の学習教室『貝体新書』：間違いを楽しむ学びの境地」
- p 15～ 同上 Ⅱ「みる・かんがえる・はなす・きく」プログラム
- p 16～ ⑨⑩グループワーク 教育プログラム開発
- p 19～ 博物館と博物館教育に関する出版物
- p 20～ 中間課題

②オリエンテーション（7日／10:00～10:45）

博物館で起こる学びとは

企画運営会議委員
三重県総合博物館（MieMu）特別顧問
全日本博物館学会会長
布谷 知夫

1 この研修で目指したいこと

- ・博物館で行われる「学び」について実践的に知ること
- ・自分の館で行ってきた教育学習活動について振り返り、新しい試みについて考えること
- ・仲間を作ること

2 この研修で学んでほしいこと

その1 博物館の教育事業は、博物館全体の運営にかかわりを持つ存在であること

博物館の仕事と役割

- 1) 資料の収集保管
- 2) 人が学ぶ場
- 3) 地域について調べる
- 4) 展示

博物館の歴史の中では博物館教育は長く二次的な事業のように扱われてきた博物館の事業すべてが総合的に行われ、すべての事業に利用者が参加してくる利用者を迎え、必要な情報と学びの機会を準備する、したがって利用者は博物館のすべての事業と運営に関わり、すべての事業は教育の役割を持っている。

博物館の活動によって、活動する人が地域を理解し、その結果、地域社会が豊かになる。博物館の役割は人づくりから地域づくりへと広がっていく。

ICOMによる博物館の定義(案) 2019 京都大会

博物館は過去と未来についての批判的な対話のため、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。博物館は、現在の紛争や課題を認識し、それらを対処しつつ、社会に託された人類がつくったものや標本を保管し、未来の世代のために多様な記録を保護するとともに、すべての人びとの遺産に対する平等な利用を保証する。

博物館は、営利を目的としない。博物館は開かれた公明正大な存在であり、人類の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的として、多様な共同体と手を携えて、収集、保管、研究、解説、展示の活動並びに世界についての理解を高めるための活動を行う。

その2 博物館で行う教育学習活動は、「知識を伝える」ことではなく、発見に至る方法を一緒に考え、アドバイスすること

博物館における学び

博物館は「自由な学びの場」であり、地域の人々に対して学びの機会を提供する。この

学びは、「知識の伝達」ではなく、「自ら考え、発見する喜びを体験する」こと。

博物館の機能を生かして、より多くの、自分でやりたいことを決めていない人に対して、博物館を利用する楽しさを人に伝えることが必要。

最近話題になることが多いリモートでの教育活動 手段と目的の混乱？

学校教育の目的 社会人として暮らせる市民の育成

そのため、強制的、多人数、マニュアル、知識を必ず伝える

博物館教育の目的 自立した個人の育成、達成感

そのため、自由意志、マンツーマン、マニュアルはない、発見の喜びを伝える

その3 博物館はすべての住民を対象としており、誰もが使いやすく、気楽に利用できるような事業と運営を行っている

どのような年齢、興味、分野の人に対しても、博物館を楽しむための窓口が準備され、博物館に参加したことで好奇心が刺激され、関心が高まるようなプログラムの準備。当面の目的は、自分が暮らす地域を知り、その良さを感じ、人に示すこと。

積極的に博物館に來ない人、博物館に関心などない人に対しても博物館の利用方法を伝える

その4 これらの博物館教育の考え方は、全ての館種に共通しており、美術館と歴史博物館、自然史博物館での考え方の区別は全くない

3 改めて博物館の社会的な役割の中で

- 1) 博物館の伝統的な役割 地域資料の整備と研究・発信
→ 地域アイデンティティの確立
- 2) 博物館の最近までの役割 地域の情報センターとなって、利用者にとっての学びの場、学びの機会を提供する
- 3) 現代的な博物館の役割 地域住民による交流の窓口となり、街づくり・地域づくりに貢献する

これらの役割は1)から3)に代わってきたのではなく、新しい社会からの要請として、付け加えられてきている。

資料と研究があってこそその学び、すべての住民を巻き込んだ学びと地域づくり

②講義・ディスカッション（7日／10:45～12:20）

人はどのように学ぶのか
—発達心理学の視点から—

白百合女子大学教授

鈴木 忠

1 発達における環境の力

（1）知能の成人発達

（2）子どもの絵の発達

2 個人の中の多様性

——頭足画をめぐる実験

3 ゆらぎとしての発達と学習：大きくゆらぐことで学びが進む

（1）個人内多様性にもとづいた発達の考え方（モデル）

（2）ゆらぎとしての発達と学習

4 他者視点の取り入れと内省

——英知が発揮される時

まとめ

③グループディスカッション（7日／13:30～15:15）

企画運営会議委員
ベルナール・ビュフェ美術館学芸員
井島 真知

企画運営会議委員
東京大学大学院客員研究員
佐藤 優香

テーマ

1. 自らが問い続けたいことは
2. より深めて考えたいことは？

④講義（7日／15:25～16:20）

社会課題に呼応する博物館活動
—社会的包摂の視点とウェルビーイング

企画運営会議委員
東京都美術館アート・コミュニケーション係長/学芸員
稲庭 彩和子

1：博物館活動における社会包摂とは？

- ・ 社会包摂とは？
- ・ 誰が排除されているのか？だれが排除しているのか？
- ・ 各種法律への理解
- * 社会包摂は社会的弱者への『ほどこし』では決していない
- * 具体例 動画紹介

2：SDGsと博物館

- ・ 「誰ひとり取り残さない」とウェルビーイング
- ・ 目標 17 パートナリーシップ
- ・ 博物館を介した SDGs の学びの機会をつくる
- * 具体例

3：議論の渦中にある博物館の新定義案

- ・ 博物館の機能から社会での役割や関わりの視点へ
- ・ 包摂・多様性・対話・連携・ウェルビーイング
- * 具体例

⑤講義・ディスカッション（7日／16:20～17:05）

利用者の博物館体験について知る

企画運営会議委員
ハンズ・オン プランニング代表
染川 香澄

1. 勤務館や身近な館の利用者カテゴリー

(1) 多い順 ()
()
()

(2) 少ない順 ()
()
()

(3) 重視順 ()
()
()

2. 実際に見聞した利用者の博物館経験

(1) 楽しんでいる事例（誰が／どんな行動／会話／展示／展示以外？）

・
・

(2) 思いもよらない反応・展開

・
・

3. 上記2の見聞した博物館経験×1の利用者カテゴリー →分析してみると？

- ・
- ・

4. 事例紹介

- (1) 園児の美術館訪問と遊びへの展開
- (2) 「おりがみを用いた昆虫かんさつ」(伊丹市昆虫館)
- (3) 特設展示 「いきものたちのかくれんぼ」 (東京都葛西臨海水族園)

5. 利用者の経験をどのように知るか

追跡調査、アンケート、事後インタビュー、観察、展示室内職員ヒアリング

6. そして

- (1) 館内で共有することの重要性
- (2) 予測をすることに慣れる
予測→活かす→新たな発見→予測→活かす→新たな発見→ 繰り返す

* 利用者が博物館の展覧会見学をして、どんなことを考えたかの好例。

『ウメサオタダオと出あう一文明学者・梅棹忠夫入門』(小学館) 小長谷有紀著

* 長期にわたる利用者の博物館体験の研究。

出版後は米国でエドゥケーターのバイブルと呼ばれていた。

参考文献リストの『博物館体験』(絶版、図書館の蔵書にあるかも。

続編の原書有り→どなたか翻訳出版してください！)

* 美術館の展示室の監視員が描いた展示室内での出来事などの4コマ漫画。

岐阜県美術館の公式ツイッターやフェイスブックで公開されていた単行本版。

『ミュージアムの女』(KADOKAWA) 宇佐江みつこ著

* 海外の博物館利用の事例。拙著。

参考文献リストの『ハンズ・オンは楽しい』(工作舎)

(古い本だが類書がなく、今になっても、この本がきっかけで博物館界に入ったと声をかけてもらえるのが望外の喜び)

* 展示開発時の展示評価について書かれた第3章は必読。

『ハンズ・オンとこれらかの博物館』(東海大学出版会) ティム・コールトン著

⑥講義（7日／17:15～18:10）

社会教育・生涯学習・博物館・博物館教育

青山学院大学准教授

大木 真徳

1. 生涯学習と社会教育

- ・ 生涯学習と社会教育の関係
- ・ 多様な教育のあり方（フォーマルな教育／フォーマルではない教育）

2. 社会教育における学習者理解

- ・ 多様な学習者の存在
- ・ 学習ニーズの把握（要求課題／必要課題）

3. 社会教育施設としての博物館

- ・ 社会教育施設という枠組み
- ・ 社会教育施設の総合性

4. 社会教育からみた博物館教育

- ・ 改めて、社会教育と博物館教育の関係
- ・ 博物館教育とは

【参考文献】

- 鈴木眞理・井上伸良・大木真徳編『社会教育の施設論』（「講座転形期の社会教育」第3巻）学文社，2015.
鈴木眞理（編集代表）「講座転形期の社会教育」（全6巻）学文社，2015-2016.
鈴木眞理『学ばないこと・学ぶことーとまれ・生涯学習の・ススメ』学文社，2006.
鈴木眞理（編集代表）「シリーズ生涯学習社会における社会教育」（全7巻）学文社，2003.
鈴木眞理『新時代の社会教育』放送大学教育振興会，2015.
鈴木眞理・馬場祐次朗・葉袋秀樹編『生涯学習概論』樹村房，2014.
鈴木眞理編『改訂 博物館概論』樹村房，2004.

Email: m_oki@ccs.aoyama.ac.jp

⑦講義・事例紹介・ディスカッション

【学校のよりよい利用にむけて】（8日／9:30～12:00）

講義Ⅰ 学校と博物館 そのよりよい利用にむけて

企画運営会議委員
美濃加茂市民ミュージアム館長

可児 光生

1. 利用する子どもの学びについて考える 内容・コンテンツ】

- (1) 博物館は、学校の「補完」「延長」「サービス機関」？
- (2) 博物館特有の自由な学び・・・「気づき」と「築き」
- (3) 関係する受け手のこと
- (4) 将来へ、地域へつながる学び



2. 学びの場の環境をととのえる 【進め方・マネジメント】

- (1) 利用に関する博物館としての理念や考え方
- (2) 利用前の相互理解
- (3) 利用中に心がけること・・・「丸投げ」？「一人よがり」？/子どもの「つぶやき」
- (4) 利用後の振り返りと検証
- (5) 学校と博物館それぞれのスタンス
- (6) 利用を通じた博物館の存在意義とは

3. 学習指導要領の改訂にともなって

- ・学校が博物館に 期待すること、ともに考えること
- ・「資料調査」「鑑賞」・・・

.....

◇関連参考文献など

美濃加茂市民ミュージアム

『美濃加茂市民ミュージアム 活用の手引き・活用実践集』 毎年3月発行

「みのかも文化の森」の学校活用 (<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/introduce/index.cfm>)

可児光生

「博物館と学校をむすぶ」『博物館教育論』2015. 6、講談社

「学校からの利用者に起きていること」『博物館研究』2014. 12、日本博物館協会

可児光生ほか

「博物館と学校が協働する意義」『協働する博物館』2019.5、ジダイ社
寺島洋子他

『博物館教育論』2012.3、NHK出版

日本博物館協会

『子どもとミュージアム』2013.5、ぎょうせい

⑦講義・事例紹介・ディスカッション

【学校のよりよい利用形態にむけて】（8日／9:30～12:00）

講義Ⅱ「学校教育現場の視点から」

日本教育公務員弘済会
埼玉支部参事 平岡 健

はじめに

- ・新型コロナウイルスにおける学校の現状

1 持続可能な連携ができるのだろうか

(1) 本校の博物館利用に関わる実態

- ①博物館の活用のしにくさアンケートから
※本校職員へのアンケート（令和2年7月実施）
- ②小中学校長への聞き取り調査から

(2) 期待していること

- ①児童にとって、魅力ある質の高い授業や活動
- ②教員の資質向上（博物館を活用できる資質・能力）
- ③タイミングの良い情報提供

2 新たな展開を

- ①博物館等を利用できない教員が増える → 利用経験を増やす
- ②博物館を利用する意識がない管理職の増加 → 管理職への個別提案
※管理職のリーダーシップ
・特別活動での利用なら、博物館の魅力をアピール、利用の仕方を浸透
- ③新学習指導要領による学習内容や順番の変化等 → 年間指導計画に対応した取組
(理科の一例)
3年…物と重さ、風やゴムの働き 4年…ヒトの体のつくりと運動
5年…水中の小さな生物、河原の石の大きさや形、雲と天気の変化の関係
(社会の一例)
6年…歴史と政治単元の順序 4年…消防・警察の単元を3年に

3 息の長い関係づくり

- ・ファンをつくる
出前、出前+教材の貸し出し 研修会
(不安をファンへ)
- ・一緒につくる
(例) 遠足のしおり

終わりに

管理職から見た博物館

○安全 ○学習効果 ○教育課程への位置付け ○持続可能性 ○経済的な負担

⑦講義・事例紹介・ディスカッション

【学校のよりよい利用形態にむけて】（8日／9:30～12:00）

博物館の現場から

葛飾区郷土と天文の博物館学芸員

小 峰 園 子

1. 葛飾区郷土と天文の博物館について

職員数：全21名（常勤：9名、会計任用職員・再任用：12名）

専門職学芸系職員（天文・考古・文化財（埋蔵）・歴史・民俗）10名、技術系職員（情報・教育）2名

事務職員（葛飾区職員）5名

葛飾区営（自治体直営型）…博物館長事務系係長職

葛飾区郷土と天文の博物館の設置目的

郷土

葛飾区の文化遺産や資料をもとに自然、生活、文化、産業の移り変わりを学んでもらう

天文

今いるこの地球が宇宙の中に位置し、その宇宙がどのように成り立っているのかを学んでもらう

2. 学校利用の動向

葛飾区内区立学校児童生徒数（令和2年度5月1日現在）

小学校49校 20,630人 727学級

中学校24校 8,621人 283学級 ※私立中学校 3校あり

●学校の博物館利用（令和元年度）

（1）学習投影（プラネタリウム）：小学4年生

49校のうちすべての学校が利用

（2）社会科見学：小学3年・5年・6年・中学2年

49校のうち25校が利用

3. 学校との連携

4. 学校が郷土の歴史や文化を知るためのツールとして博物館を利用するには

5. 事例紹介

事例1）学校からの要請で具現化した民具を使った利用例

事例2）葛飾区内の産業を学ぶ体験

事例3）田植えを農書から学ぶプログラム

おわりに

⑧利用者が能動的に学ぶプログラム体験
(8日／13:10～15:10、17:25～18:00)

**I 大人の学習教室「貝体新書」:
間違いを楽しむ学びの境地**

三重県総合博物館 (MieMu) 館長
大野 照文

⑧利用者が能動的に学ぶプログラム体験
(8日／15:25～17:25、17:25～18:00)

Ⅱ「みる・かんがえる・はなす・きく」プログラム

京都芸術大学准教授
伊達 隆洋

⑨⑩グループワーク（9日／9:30～16:00）

教育プログラムの開発・発表、評価・検証・改良等

企画運営会議委員
千葉県立中央博物館上席研究員
林 浩二

企画運営会議委員
ハンス・オン プランニング代表
染川 香澄

教育プログラムの開発・発表

<課題> 東京都美術館の建物・空間を素材にプログラムを作成して企画書にまとめる
建物すべてと中庭が対象（展示室はNG）
前日までに各自で建物を下見しておくこと

<条件> 対象として個人客を集めたグループを想定（学校・一般団体は対象にしない）
所要時間、人数などは任意だが、別の日にまたがらないこと。
事前申し込みの有無もどちらでもよい
展示品・作品・資料等の追加はしないこと。
道具（測定器具）などは実現が容易なものなら工夫してよい。
現場での活動（必須）＋作業室での活動（オプション）
空間スペースなど物理的条件を緩める想定は可。
説明した以外の制限事項などについては、個別に相談のこと

<注意> プログラムの素材を絞り込むのに時間をかけすぎないこと
作業中に他の来館者に迷惑がかからないよう注意すること

<プログラム開発上の注意>

- ・時間が短いのでまずは概要を記入
- ・対象を明確に <重要>
- ・テーマ・トピックは素材・切り口
- ・（大前提）参加者がその活動の中で感じる・考えることは、どんなことであれ尊重される。
- ・参加者が（存分に）鑑賞・観察・活動できる余地を確保しなければならない。
※参加者同士の対話・交流 → 「ゆらぎ」を生む → 深い学びにつながる
- ・参加者に持ち帰ってほしいこと、伝わってほしい内容を想定。
- ・しかし、参加者が実際にもちかえるのは、想定したものと同じとは限らない。
※企画者側の「伝えたい」ことの押しつけになってはいけない。
- ・「正答が一つ」のような問いは避けたい／避けるべき。

< 1 回目の発表とコメント >

- ・各班で、発表者（原則 1 名）を決めておく。
- ・グループで企画書を 1 枚作成し、投影しながら各班 2 分程度で発表する。
- ・他の班の発表を聞く時には、コメントするためにメモをとること。
- ・付箋紙の色遣い；「いいね」は<あお>、「質問」は<き>、「改善提案」は<あか>
直接に付箋紙は使わず、まずは別紙にグループ番号とコメントをメモしておく。
後で、付箋紙の色を的確に選んでコメントを清書して提出する。
- ・コメントは学術的な中身より、教育目標や対象（の的確な設定あるいは把握）等にも。

プログラムの評価・検証・改良等

< コメントの分析・改良案作成 >

- ・< いいね >、< 質問 >、< 改善提案 >に分けて一読・共有する。
- ・受け取ったコメントは大切に受け止める。
- ・< あか >の改善提案こそ、プログラム改良の大きなヒント。
- ・参加者のことを考えて、よりよいプログラムにすべく考えたい。
- ・話し合いが混線した時には「参加者に持ち帰ってほしいこと、伝わってほしい内容」
に戻って考えてみることに。
- ・受けた助言・意見と変更・改善点について企画書に記述すること。
- ・企画書の切り貼りをしてもよい。原則として書式どおりの 1 ページ。

< 2 回目の発表 >

- ・各班、1 回目とは別の発表者（原則 1 名）を決めておく。
- ・1 回目と同様、投影しながら各班 2 分程度で発表する。

◎ 1 回目の企画書・2 回目の企画書とも、後日、ファイルで共有されます。

プログラム企画書

グループ名 _____

第10回 文化庁ミュージアム・エデュケーション研修 2020/10/09 於 東京都美術館

プログラム名称	
作成者 (所属)	
対象者	
場所	
期間・時間	
テーマ・ トピック	
持ち帰ってほしいこと、 伝わってほしい内容	(「〇〇は▲▲だ」のような表現で、1～3点)
プログラム 内容 道具 時間経過 活動場所 参加者の動き	
受けた助言	
助言を受けて 改善した点	

博物館と博物館教育に関する出版物

1 後半研修が始まるまでに、この中の3冊程度を読んでおいてほしい博物館教育の本 小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄(編著)(2012)

『博物館教育論 新しい博物館教育を描き出す』 ぎょうせい

大高幸・端山聡子(編著)(2016)『新訂 博物館教育論』放送大学教育振興会
フォーク, J. とディアークィング, L. (1996)「博物館体験—学芸員のための視点」

高橋純一訳, 雄山閣書店(絶版)

大堀哲・水嶋英治(編著)(2012)『博物館学Ⅱ 博物館展示論・博物館教育論』学文社

黒沢浩編著(2015)『博物館教育論』講談社

フィリップ・ヤノウィン(2015)『学力をのばす美術鑑賞 ヴィジュアル・シンキング・ストラ
テジーズ』淡交社

鈴木有紀(2019)『教えない授業 美術館発、「正解のない問い」に挑む力の育て方』英司出版

2 できるだけ早期に読んでおいてほしい文献(博物館の運営方針、博物館とは何か)

マックリーン, K (2003)「博物館をみせる 人々のための展示プランニング」玉川大学出版部

吉田憲司(編著)(2011)『博物館概論(改訂新版)』放送大学教育振興会

浜口哲一(2000)『放課後博物館へようこそ』地人書館

伊藤寿朗(1993)『市民のなかの博物館』吉川弘文館

布谷知夫(2005)『博物館の理念と運営 利用者主体の博物館学』雄山閣

金山喜昭(2003)『博物館学入門』慶友社

福原 義春(編集)(2011)『100人で語る美術館の未来』慶應義塾大学出版会

佐々木秀彦(2013)『コミュニティ・ミュージアムへ「江戸東京たてもの園」再生の現場から』
岩波書店

3 博物館教育の議論をするための文献

染川香澄・吹田恭子(1996)『ハンズオンは楽しい』工作舎

ハイン, G. (鷹野光行・他訳)(2010)「博物館で学ぶ」同成社

アメリカ アレナス(木下哲夫・訳)(2010)『みる・かんがえる・はなす 鑑賞教育へのヒント』
明治図書出版

佐伯胖(2004)『「わかり方」の探求 思索と行動の原点』小学館

4 博物館の運営や考え方についての文献

倉田公裕・矢島國雄(1997)『博物館学』東京堂出版

大堀哲(編著)(1997)『博物館学教程』東京堂出版

伊藤寿朗・森田恒之(編)(1987)『博物館概論』学苑社

日本展示学会(2010)「展示論—博物館の展示をつくる—」雄山閣

国立歴史民俗博物館編(2003)「歴史展示とは何か—歴博フォーラム 歴史系博物館の現在・未来」
アム・プロモーション

吉田憲司(2013)『文化の『肖像』 ネットワーク型ミュージオロジーの試み』岩波書店

博物館及びその収集品並びにこれらの多様性及び社会における役割の保護及び促進に関する勧告

(2015年 第38回ユネスコ総会採択) <http://www.mext.go.jp/unesco/009/1393875.htm>

中 間 課 題

テーマ：「自館の既存の教育プログラムや利用者の「学び」につながるツールの
振り返り」

締切り：令和2年12月24日（木）（必着）

提出方法：所定の様式（Word）に記入の上、museum@mext.go.jp宛てにメール
添付にて提出のこと。PDFは不可。

備考：課題提出様式は後日データをメールでお送りします。

完成原稿で提出のこと（校正なし）。

提出された課題は、課題集として印刷し、受講生及び講師等研修関係者
に共有されます。

**締切りまでに到着しなかった者については、該当ページを白紙にて印刷
します。**